

## ● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
<b>白 書</b>		
障害者白書 令和4年版	内閣府（編）	勝美印刷
高齢社会白書 令和4年版	内閣府（編）	サンワ
文部科学白書 令和3年度	文部科学省（編）	日経印刷
少子化社会対策白書 令和4年版	内閣府（編）	日経印刷
女性白書 2022 コロナ禍を超え、ジェンダー平等社会の実現を	日本婦人団体連合会（編）	ほるぷ出版
<b>教 育</b>		
ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために スクールソーシャルワーカーの事例から	高良麻子（編著） 佐々木千里（編著）	かもがわ出版
学校の中の発達障害 「多数派」「標準」「友達」に合わせられない子どもたち	本田秀夫	SBクリエイティブ
<b>社 会</b>		
自治体が直面する 高齢者身元保証問題の突破口	沢村香苗	第一法規
<b>地方自治</b>		
図解よくわかる 地方議会のしくみ <改訂版>	武田正孝	学陽書房
<b>産 業</b>		
ワーケーション企画入門 選ばれる地域になるための受け入れノウハウ	松下慶太	学芸出版社
<b>芸 術</b>		
ヘリテージマネジメント 地域を変える文化遺産の活かし方	松本茂章（編著）・中川幾郎・南博史・ 高岡伸一・朝倉由希・信藤勇一・ 高島知佐子・森屋雅幸・西村仁志・ 石本東生・藤野一夫	学芸出版社

## 天狗伝説

皆さんは、天狗の存在を信じますか？

「元和5年(1619年)、徳川頼宣が和歌山城の拡張に取りかかったとき、虎伏山に住む天狗に退去命令を出した。しかし、住みかを失う天狗は、深夜3回の警護をする条件で藩に懇願して居住許可を得た。天狗は、さっそく城内の巡視を始め、その時折、石に腰を掛けて休息した」という天狗にまつわる伝説があります。そこに登場する石は「天狗の腰掛け石」と呼ばれ、和歌山城の南側を走る三年坂沿いの西の角に存在します。

この話を教えてもらい、実際に和歌山城に「天狗の腰掛け石」を探しに行ってきました。

路上からは見上げるほど高く、石垣の上からは急勾配の下りになっているような行きにくい場所に、上部が平らなその石はポツンと置かれていました。なるほど、空から降り立つことができる天狗だとスムーズに行けるに違いありません。

和歌山市役所からその場所まで和歌山城のお堀沿いに行くと、息切れこそしませんが、一休みしたくなる気持ちも分かりました。南向きの高台の中ほどとなれば、見晴らしも良かったことでしょう。

天狗は伝説上の生き物とされていますが、実在する人物である徳川頼宣と現存する石のコラボが興味深く、約400年前は、もしかしたら実際に存在したのではないかと思います。

和歌山城にはそんなロマンを感じる場所が他にもあります。砂の丸の北端は、天狗の出入り口とされ、かつては足跡のついた石があったと言われています。

暑さも和らいできたこの季節、伝承の地を巡ってみるのも楽しいかもしれません。



天狗の腰掛け石